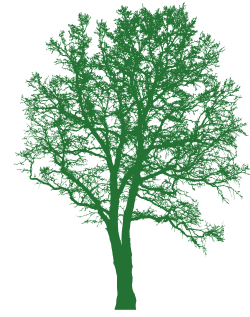


信州 知の連携フォーラム



環境変化を民話で楽しく学ぶには？ ～演劇とパフォーマンス～



プロフィール

ちいさがた未来民話研究会 会長 姫 凜子（安徳 ゆうこ） Himeringo (antoku yuko)

神奈川県横浜市出身。

20代より演劇作品に出演。その後は演劇やパフォーマンスの企画・創作も行う。上田市への移住をきっかけに信州の民話や伝承に興味を持ち、2022年より地域の民話の調査や民話を掘り下げる講演会を企画。災害に関わる民話をベースに演劇作品を創作したことから2023年にパフォーマンス団体「ちいさがた未来民話研究会」を結成。地域に伝わる民話や伝承を元に音楽・演劇・声など様々な方法で創作し表現する。コアなアーティストから一般の方まで楽しめる作品づくりを目指す。民話や伝承を普及してファンを増やすため、調査・創作活動を継続中。



目次

01 災害を民話から学ぶとは？

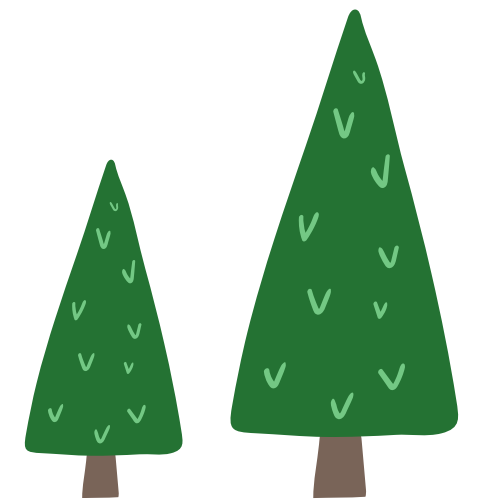
02 活動事例

03 民話が災害を伝える役割

04 アートの役割

05 地域資源としての民話伝承

Table of
Contents



災害を民話から学ぶとは？

01



「蛇抜け」とは、山津波(土石流)の事。白い石が土砂と共にうねるように沢を流れる様子が、白い蛇が「のたうつ」ように見えることより南木曽地域の方が昔からそう呼んでいる。

民話「蛇抜け」の話は、天保15年に尾張藩が殿様のお屋敷を建てるために山の木を切りすぎたことによる土砂災害を民話にしている。山の神（白蛇）が誠実なきこり、与平に忠告する。「これ以上木を切りたおすと必ず悪いことが起こるでしょう」山の神＝自然からの警鐘にきこりの与平は耳を傾け、土砂災害から身を守ることができた。（写真1）

現在も蛇抜沢（読書）、蛇抜橋（読書三留野）などの過去の災害を物語る地名が数多く残っており、川沿いにも土石流で流れてきたと見られる大きな石が多く見られる。集中豪雨があると白い花崗岩でできた山の表面は崩れやすい。（写真2）



写真：天保15年の蛇抜け災害の供養のための石地藏



写真：白い花崗岩が川に流れている

① 「蛇 抜 け」 天 保 1 5 年

災害の予兆 「鳴動」

笹本正治先生 著書 「鳴動する中世」より

- ① 大きな音をたててゆれ動くこと。鳴りうごくこと。
また、その音響と震動。
- ② 地震の時にうなるような土地の震動と音響がおこること。

- ・ 関東大震災の前に大砲のような音が聞こえた（鎌倉・藤沢地方）
- ・ 村に異変が起こる前に赤子のような声を立てて祠の神が泣く
（夜泣きをする神様―北杜市高根町）
- ・ 天気の変わり目に太鼓の音が聞こえる（大町美麻高地 天狗の祠、佐久市 雨乞い岩）

自然が災害の前に発する「音」に耳を傾けることで災害から身を守る

鳴動とは自然から人間への警鐘音

「蛇抜け」民話、きこりは自然からの警鐘音を聴く事が出来たので土砂災害から身を守れた

02

活動事例



民話劇のための音楽的アプローチ

・ 鳴動、異音、怪音、こわい音を考える。

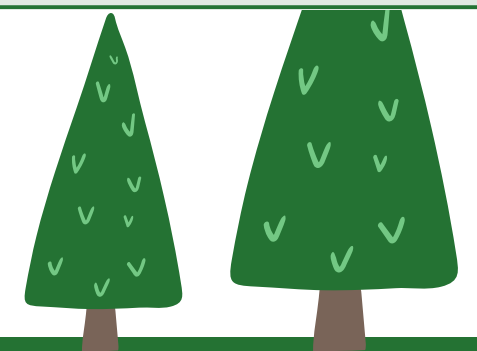
1、空間から音をみつける、空間で音を出す。会場の中に在る音を聴く。音に混ざる。ここでの音を出す。例えば、シンバルをたたく、鈴を落とす、紙をこする。人間の感情をイメージした音を声で表現する。

2、テキストから音をみつける

民話『のけ下』の中の音をさがす。出してみる。

参加者の感想

- ・ メロディのない音を感じられた
- ・ 自然の音に敏感になった
- ・ 楽器がなくても音楽を作れると思った



「鳴動」～音が伝える災害の警鐘～の上演

笹本正治先生の著書「鳴動する中世」～怪音と地鳴りの歴史～からヒントを得る。当会は楽譜のない音楽を作る音楽家と言葉を使わない声のパフォーマンスも得意とする演劇人で構成される団体。特技を生かし、鳴動というテーマで音楽民話劇を作ろうと試みる。自然が災害の前に発する警鐘音をテーマ民話劇を上演。好評を博す。

災害を民話で楽しく学ぶ
大人も子供も楽しめる

鳴動

2024

音が伝える災害の警鐘

即興ボイスと倍音音楽、
等身大の人影が織りなす
創作民話劇

2024年10月13日(日) 13時30分開演(開場 60分前)

● 13時からミニワークショップ開催！ 自分の声、持っている物で「鳴動」音を出してみましょう(参加無料)

● 終了後にアフタートーク・交流会開催！ 災害民話劇を見て、皆さんの思い、経験を自由に語り合いましょ。私たちの今後の創作活動にもつなげていきます(参加無料・要ワンオーダー)

料金/1,500円(当日料金500円追加)
会場/きこりの家(長野県木曽郡南木曽町読書1390-1)※駐車場あり
出演/姫凜子・大隅健司・葛目純一・百鬼ゆめひな

地域アーティストによるパフォーマンス
galaxy route nineteen (アーティストコレクション): 歌・演奏・映像

総合演出/仲田恭子(アートひかり)・企画・監修/姫凜子(ちいさがた未来民話研究会)

詳細は「ちいさがた未来民話研究会」のSNS・noteをご覧ください▶
問い合わせ/✉cmk.minwa@gmail.com ☎080-6441-1391(安徳)

主催/ちいさがた未来民話研究会
支援/信州アーツカウンシル(一般財団法人長野県文化振興事業団) 令和6年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業 大がた

出店 南木曽の民宿「はていや」によるDJ、飲食の販売あり

予約 カルテットオンライン

02

活動事例② 創作民話劇の「鳴動」上演



いいだ人形劇フェスタ・2024/8



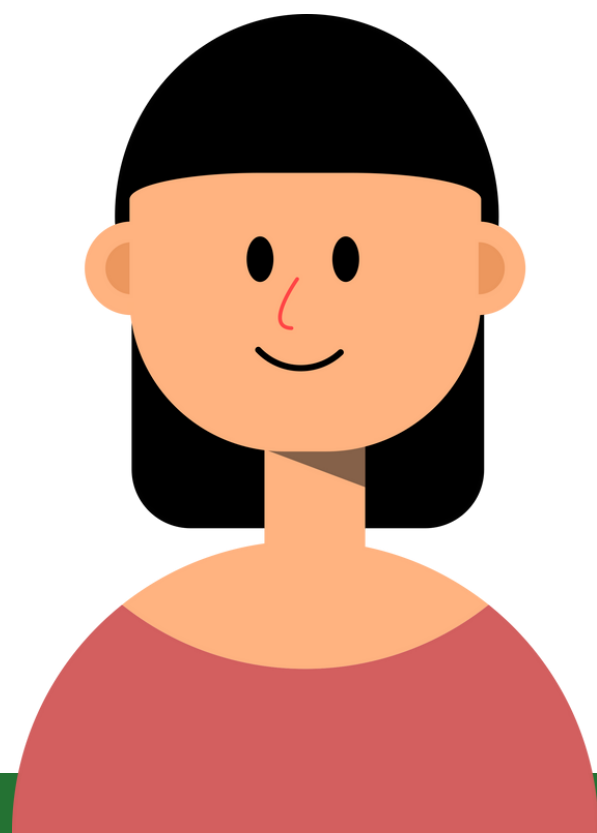
伊那谷 中川村 奏の森オーガニック
スイーツ、かまどご飯ビュッフェ



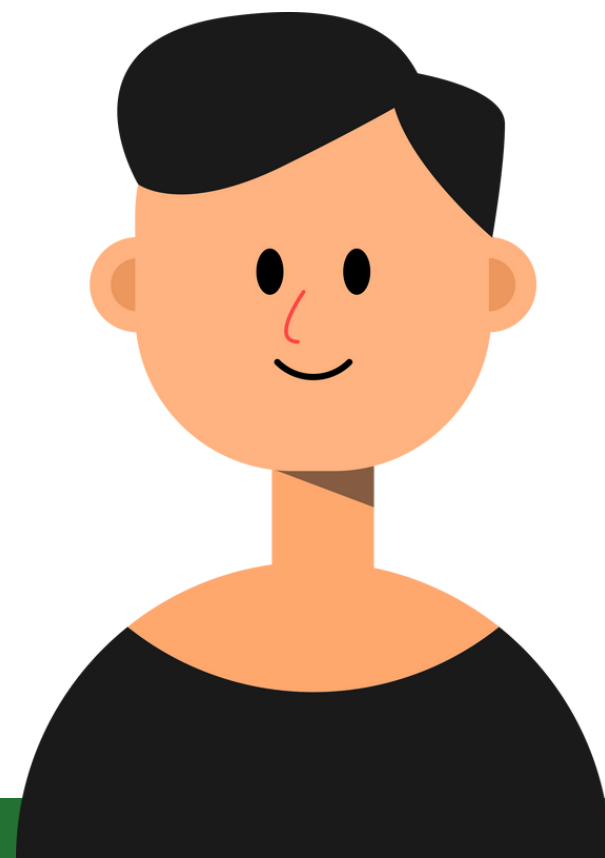
木曽谷 南木曽町 きこりの家
カレー、木曽のお漬物



民話に興味を持っ
た（20代、40代）



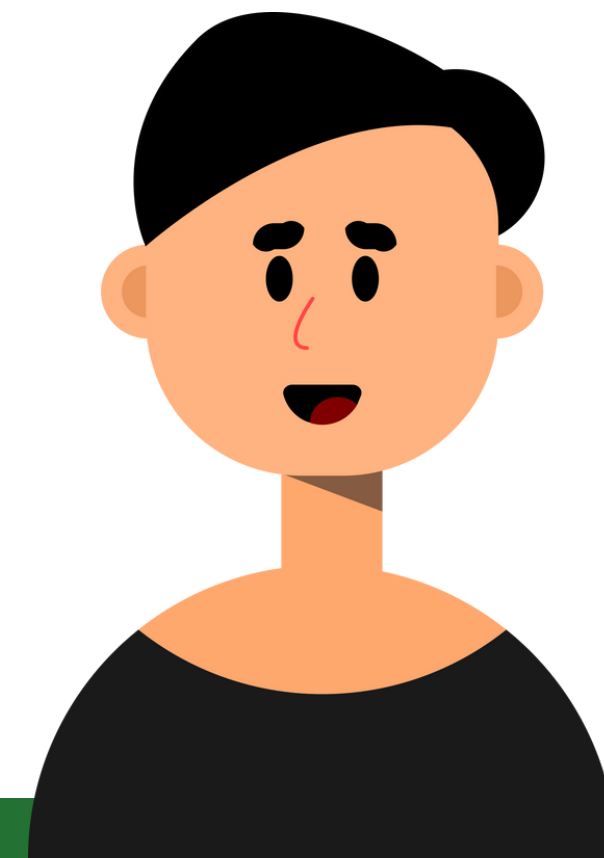
自然の音に敏感に
なった
（30代男性）



災害のことを知る
ことができた
（70代女性）



現代の自然災害に
繋がる話だった
（40
代男性）



03

民話が災害を伝える役割



・防災意識向上

民話劇に出てきた警鐘が現代にも当てはまる→木を切りすぎると山が保水できなくなり、山が崩れ安くなる。大雨の時の川の音に注意する。

・地域の良さの発見

民話の場所を尋ねて地域の良さも知ることができる。水の流れが速い→水が綺麗、景観が良い。

・気候 / 地形 / 自然環境への興味

南木曾町は雨が多く、蛇抜けが多い。白い蛇は白い石のこと。木曾路の旧道は土砂災害から身を守るため高い場所にある。

・民話を楽しみながら防災意識を持てる

アートの役割



04

- ・ 作品に昇華し人の心を打つ

- ・ 楽しい、美しいものへの興味関心

- ・ 表現する楽しさ、観る楽しさ

- ・ 日々の生活を豊かにする創作活動

04

アートの役割

防災対策は実際起こってみないと対策をしない。自然と頭に入る方が良い。怖いこと面倒なことは逃げたくなるのが人情。

例：太平洋戦争「はだしのゲン」→漫画だから読みやすい、

「ゴジラ」などエンターテインメントになって面白い。口コミで広まる。現代でいうSNSの旧Twitterがバスる→興味があるものは自然と伝承される

**おもしろさ、楽しさ、びっ
くりが人を惹きつける。伝
えたくなる→技術のあるア
ーティストの役割**

人形師の百鬼ゆめひな、アーティストコレクティブ
GR19によるパフォーマンス



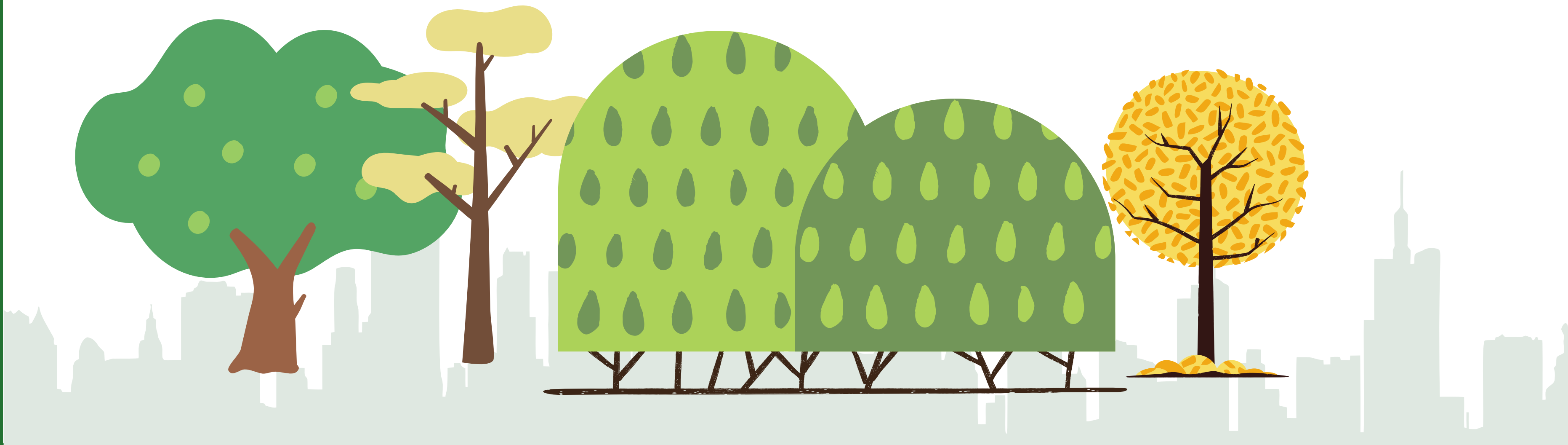
演劇を見て民話に興味
を持った

90%

2024年10月実施し
た民話劇観覧者へのア
ンケート

05

地域資源としての民話伝承



・アーカイブの必要性

民話を知りたいと思っても、現代では民話を語る人はほとんどいない。冊子や映像で残し伝える必要がある

・五感に働きかける

面白い、美しい、びっくり、美味しいなど、五感に働きかけ印象付け、民話への興味が深くなる。

・楽しみながら役にたつ～防災意識の向上

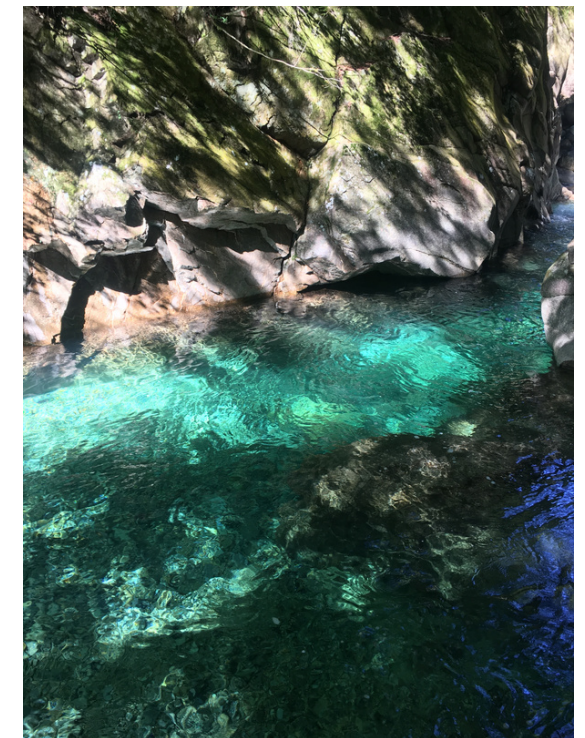
災害の民話に興味を持てば過去の災害の教訓を自然と学ぶ事ができる。現代にも繋がる災害は防災意識の向上に繋がる。

災害民話への興味が地域の未来につながる



奏の森 事例

近年の獣害や農薬でミツバチがいなくなる出来事をミュージカルにしたことで、森の活動に興味を持つ人が増えた。その土地で生産した古代小麦や蜂蜜のおいしさをカフェで提供。保育給食にも。五感に働きかけて実感を伴う。



南木曽町 事例

民話を観た若い世代が過去の災害を知る事ができ、お年寄りから過去の蛇抜けの話も実際に聞いた。30代の民宿を始めたご夫婦が景観と自然保護で古民家再生を行なっている。地域伝統の漬物を出している

THANK YOU!

ありがとうございました